

※当教会は、キリスト教テレビ番組ライフ・ライン(テレビ神奈川日曜日午前8:30～9:00)、キリスト教放送局FEBC(ラジオ放送AM1566kHz毎日夜9:30～10:45)を支援しています。

ただ洞窟か、小屋か、家の一部か、あるいはそれ以外の場所かもしれませんが、その場におそらく馬はいなかったと思われます。というのは、当時の馬は軍馬でしたから、軍馬の馬小屋で庶民のマリアが出産するというのは考えにくいことです。

聖書では、馬は基本的に戦いに関連したイメージや力の象徴として用いられています。その軍事力や力とは、イスラエル人の軍事力というより、イスラエルを脅かす軍事力です。たとえば、エジプトで奴隷にされていたイスラエル人がモーセに率いられてエジプトを脱出したとき、ファラオは軍馬に引かれた戦車の一団を率いて追いかけます。イスラエルの人々はどれほど恐ろしかったことでしょうか。の時は、海の真ん中に道を作るという神の奇跡のわざでイスラエル人は逃げることができ、後を追ってきたエジプトの軍勢は、王も兵士たちも戦車も、そして軍馬も元に戻った海にのまれてしまいました。

その後、イスラエル人は神に導かれて約束の地に定住しますが、周囲の国々よりも馬の導入が遅かったと言われます。その理由としては、山がちな地形だということがありますが、それ以上に「**王は、決して自分のために馬を増やしてはならない**」(申命記 17：16)という律法の教えがあったことが大きいでしょう。国や国民を守るために軍事力を増強するのは王として当然のことですが、そのような目に見える力にのみ頼り頼むのではなく、エジプトの軍勢に追いつめられるという圧倒的に不利な状況からでも救ってくださる神をこそ頼みとすることを聖書は教えています。「**ある者は戦車を ある者は馬を求める。しかし私たちは 私たちの神 主の御名を呼び求める**」(詩篇 20：7)。

聖書の時代の人にとって、馬は力、頼みとするものの象徴でした。私たちにとっての「馬」、力、頼り所は何でしょうか。それが何であれ、どんな「馬」よりも頼りになるお方、信頼できるお方、天地を造り、私たちをどんな時も守り支えてくださるお方にこそより頼みたいものです。